

平成28年度国立天文台研究集会開催報告書

平成 29年 1月 20日

国立天文台長 殿

代表者	氏 名	(ふりがな) きたやま てつ 北山 哲					
	所属・職	東邦大学理学部物理学科・教授					
	電話	047-472-5913	E-mail	kitayama@ph.sci.toho-u.ac.jp			
研究集会名	第29回理論懇シンポジウム「重力が織りなす宇宙の諸階層」						
開催期間	2016年 12 月 20 日 (火) ~ 2016年 12 月 22 日 (木)						
開催場所	東北大学 青葉山キャンパス						
参加人数	153名						
研究集会の概要	理論懇シンポジウムは、理論天文学・宇宙物理学を専門とする研究者の組織である理論天文学宇宙物理学懇談会（理論懇）が主催し、年一回開催されるシンポジウムである。年度ごとに、研究者コミュニティの間で時宜にかなった重要テーマを取り上げ、多彩な分野のレビュー講演を各分野の専門家に依頼することで、最新の研究動向の共有を図っている。 平成28年度は、「重力が織りなす宇宙の諸階層」をテーマとし、第29回理論懇シンポジウムを開催した。言うまでもなく、重力は天文学・宇宙物理学の要となる相互作用であり、惑星から宇宙全体に至るあらゆる階層の成り立ちに本質的な影響を及ぼす。また、平成27年から平成28年にかけては、アインシュタインによる一般相対論提唱から100年目にあたり、専門家・非専門家を問わず、同テーマへの社会的関心が高いことにも留意した。今回は、以下の4つの主要トピックスに関して、各分野の専門家の方々に招待講演をして頂いた。 ① 星、惑星、天体力学 ② 銀河、大規模構造、重力レンズ効果 ③ 高密度天体、重力波、重力検証実験 ④ 初期宇宙、統一理論 招待講演者(敬称略)： 千葉征司（東北大）、二間瀬敏史（京都産業大）、荻原正博、高橋博之（国立天文台）、斎藤貴之（東工大）、高田昌広、谷川衝、横山順一（東京大）、村田次郎（立教大）、犬塚修一郎（名古屋大）、木内建太、杉本茂樹（京都大）、石橋明浩（近畿大）、橋本幸士（大阪大）、Chris Done（ダーラム大） また、これに加えて、主に若手の研究者にも関連分野のセッションで一般講演をして頂いた。						

研究集会の成果	本研究集会は、東北大学天文学教室をホストとして天文分野の内容に重点をおきつつ、基礎物理分野から非専門家向けのレビュー講演等も交えることによって、両分野の専門家が双方の最新の研究動向を把握し、交流を深める場を提供することができた。全ての講演において、活発な質疑応答が行われた。これによって、社会的関心が特に高いテーマである重力に関する最新の知見を理論懇会員が共有し、社会に発信していくための土台作りにも貢献できたと考えている。 また、理論懇シンポジウムは研究者人口の多い関東・関西地方での開催が多いながらも、日本全体における理論天文業界の発展を促すため、各地の拠点大学を巡回している。今回は東北地方における開催が初めて実現され、同地域における理論天文学・宇宙物理学研究の推進にも寄与できたと期待している。 さらに、招待講演以外の一般講演枠の大半を、今年度博士号を取得する予定の学生に優先的に配分することで、若手研究者が自らの研究成果を広く周知する機会を提供することができた。
その他参考 となる事項 (希望事項も 含む)	研究会の内容、講演ファイルなどは、 https://www.astr.tohoku.ac.jp/rironkon2016/index.html に公開されており、希望者が自由に閲覧することが可能となっている。